

# アジア映画の夕べ



「女人、四十。」  
香港

2/22 (月)

午後7:00～午後8:41(101分)  
岐阜市文化センター小劇場

「私の子供」  
フィリピン

2/23 (火)

午後7:00～午後8:48(108分)  
岐阜市文化センター小劇場



「桜桃の味」  
イラン

2/25 (木)

午後7:00～午後8:38(98分)  
岐阜市文化センター小劇場



「インディラ」  
インド

2/26 (金)

午後7:00～午後9:07(127分)  
岐阜市文化センター小劇場



写真提供/(株)セアリス

「太陽の少年」  
中国・香港

3/7 (日)

午後2:00～午後4:08(128分)  
岐阜市民会館大ホール



●入場料/  
1日券 700円  
通し券(5日間) 2,500円

●お問い合わせ/岐阜市文化センター 058-262-6200  
岐阜市民会館 058-262-8111  
長良川国際会議場 058-296-1200  
●主催/岐阜市・財団法人岐阜市公共ホール管理財団  
●後援/岐阜県教育委員会・国際交流基金・財団法人岐阜県国際交流センター

# アジア映画の夕べ

第187回市民の劇場

—アジア秀作映画祭—

## 女人, 四十。

にょにん、よんじゅう

1995年/香港/カラー/101分

監督: アン・ホイ (許鞍華)

出演: ジョセフィン・シャオ (蕭芳芳)

ロイ・チャオ (喬宏)

## 夏にきらめく雪の花。女、一番美しく——

「女人、四十。」はそのタイトル通り、40代にさしかかった一人の女の物語。

主人公のメイは、夫と高校生の一人息子を持つ、香港の平凡な妻として一家を仕切りつつ、貿易会社の販売部長として仕事をてきぱきとこなすキャリア・ウーマン。メイのバランスのとれた両立の日々は、突然の夫の母(姑)の死と、夫の父(舅)がアルツハイマー(老人性痴呆症)にかかったことでガタガタと崩れ始める。彼が判るのは嫁のメイのことだけ、実の息子や娘には素知らぬ顔。はた目には滑稽に見える老人の看護と、貿易会社の仕事でのストレスに疲労困憊しつつも、舅が時折覗かせる少年のような純粋さに、やがてこれまであまりじっくりいっていなかったメイと舅の心は少しずつ通いはじめる。

## 私の子供

This Child is Mine

1994年/フィリピン/カラー/108分

監督: オリヴィア・M・ラマサン

出演: アイコ・メレンデス

リチャード・ゴメス

## 親子の絆とは……

日本では数多くのフィリピン人女性ダンサーが働いているが、本作は彼女らを送り出す側の状況をリアルに描いている。

従姉のマリッサが幼い息子BJを残して日本へと出稼ぎに向かい、数か月がたった。BJを預かる大学生のアナは、便りの途絶えたマリッサに代わって、子供の母親として生きていこうと決意、授業の合間にアルバイトと育児を懸命にこなしていた。周囲からは未婚の母と見られ辛い日々でもあったが、懸命に生きるアナにマイクは惹かれ、愛し合う二人はBJを間に、いつしか家族となっていた。そして数年が経ったとき、突然マリッサが帰国した。いまは日本人と結婚し、何不自由なく暮らす身となった彼女は、息子のBJを引き取り、晴れて一緒に暮らしたいというのだ。親権をめぐる争いのなか、実はマイクがBJの父親であることが判る。苦悩の末、マリッサは息子をアナに託すのだった。

国際交流基金提供。

## 桜桃の味

Taste of Cherry

1997年/イラン/カラー/98分

監督: アッバス・キアロスタミ

出演: ホマユン・エルシャディ

アブドルホセイン・バゲリ

## それでも季節はめぐり来る。

'97年フランスのカンヌ国際映画祭において日本の今村昌平監督の「うなぎ」とともに大賞であるパルムドール賞を受賞した作品。

監督はイランの名匠アッバス・キアロスタミ。「オリーブの林をぬけて」以来、3年ぶりに撮り上げた人間ドラマである。

職を求める失業者の群れをかきわけ、車を走らせる中年男パティ。多額の報酬と引き換えに自殺を手伝ってくれる者を探す彼だったが、車に同乗して彼の話を聞いた人々は、みな様に断る。それでもめげないパティは、博物館で働くひとりの初老の老人と話をつけたが……

悪戦苦闘の果てに生の意味を見出す主人公の旅を、淡々とした語り口で描写。人間を見つめる優しい視点にキアロスタミ作品ならではの温かさが感じられ、深い味わいを与えてくれる。

## インディラ

INDIRA

1995年/インド/カラー/127分

監督: スハーシニ

出演: アヌラダー・ハーサン

アルヴィンド・スワーム

## 生きる。美しく、強く。

インドのトップ女優スハーシニが監督デビューを果たした社会派の人間ドラマ。

「インディラ」は、インドの小さな村を舞台に、ひとりの少女が、社会のさまざまな矛盾や困難に対して、くじけず勇敢に立ち上がるロマンに満ちた物語。

下位カーストに属しながら、両親や幼友たちでもある恋人に愛されて育った少女インディラが、結婚も間近に迫ったある日、カースト制度による村の対立に巻き込まれ、村の長だった最愛の父を奪われる。悲しみと怒りを胸に、その代わりとして人々から頼みとされ、やがて人々を励まし、リードする立場になっていく。そして、美しく、強く生きる女性に成長していく。

## 太陽の少年

IN THE HEAT OF THE SUN

1994年/中国・香港/カラー128分

監督: チアン・ウェン (姜文)

出演: シア・ユイ (夏雨)

ニン・チン (寧靜)

## 大人のふりして恋をした、あの夏の輝き。

「芙蓉鎮」、「紅いコーリャン」などで主演俳優として国際的にその名を挙げたチアン・ウェン (姜文) の初監督作品。

舞台は70年代半ばの北京。文化大革命のさなか、大人たちは政治論争に明け暮れ、青年たちは農村に下放されていた。空っぽになった都会は中学生の悪ガキたちのユートピア。誰にも邪魔されず、授業をさぼり、煙草を吹かし、ナンパに励む。我がもの顔で街を駆け抜ける不良少年たち。その一人が、主人公のシャオチュンだった。夏の初めの日、合い鍵でスリルを求めて入り込んだアパートの一室で、シャオチュンはベッドの上に飾られた一枚の写真に目を奪われる。赤い水着でほほえむ、ちょっと年上の少女。この部屋の住人だろうか。引きつけられるようにアパートに通い続けるシャオチュンはつい本人と出会う。それは、不良仲間の伝説のマドンナ、ミーランだった……

# アジア映画の夕べ

～アジアの鼓動を感動にして～

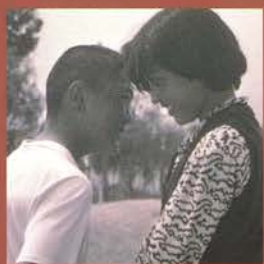
2月 28日



運動靴と赤い金魚  
Children of Heaven: Basheha Ye Akeman

(イラン)  
岐阜市文化センター小劇場  
午後7:00～8:28  
(88分)

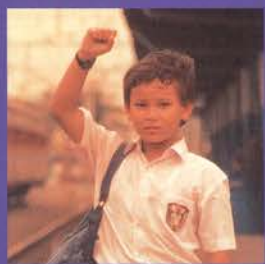
3月 1日 水



あの娘と自転車に乗って

(キルギス・フランス)  
岐阜市文化センター小劇場  
午後7:00～8:21  
(81分)

3月 3日 金



青空がぼくの家  
(インドネシア)

岐阜市文化センター小劇場  
午後7:00～8:45  
(105分)

3月 5日 日



八月のクリスマス  
(韓国)

岐阜市文化センター小劇場  
午後2:00～3:37  
(97分)

3月 12日 日



スパシーラブスープ  
(中国)

岐阜市民会館大ホール  
午後2:00～3:49  
(109分)

入場料/一日券 一般 700円(当日800円)  
学生 600円(当日700円)  
通し券(5日間) 2,500円(学生2,000円)

主催 岐阜市・財団法人岐阜市公共ホール管理財団  
後援 岐阜県教育委員会・国際交流基金  
財団法人岐阜県国際交流センター  
お問い合わせ 岐阜市文化センター (TEL058-262-6200)  
岐阜市民会館 (TEL058-262-8111)  
長良川国際会議場 (TEL058-296-1200)



文化センター 1階(1C)会議室、文化センター1階(1B)1階  
市民会館 1階バス(市民会館・岐阜県庁下層部)  
岐阜バス(岐阜市公共ホール下層部)

# アジア映画の夕べ

## ～アジアの鼓動を感動にして～

### 運動靴と 赤い金魚

Children of Heaven Bacheha-Ye Aseman  
1997年/イラン映画/88分  
監督 マジッド・マジディ  
出演 ミル=ファロク・ハシェミアン  
バハレ・セッデキ

僕は走る、ただひたすら走る。純真な心を胸に……。

妹の靴を無くしてしまった兄は、マラソン大会の賞品の運動靴をもらおうと3等を目指して走る。この作品にあふれているのは、子供たちが懸命に日々を生きている素晴らしさ。純真だけではない複雑な心の機微を子供の目線で描き、子供を通して大人の世界に問題を提起している。監督のそうしたはつきりとしたビジョンが、抑制されたセリフ、説明しすぎない編集、イランの現在を見つめる風景の切り取り方、兄弟の目線をしっかり捉えて表現する演出など見事なストーリー・テラーを發揮している。観客も兄弟を応援しながら、いつの間にか一緒に走っている。

アカデミー賞外国語映画賞ノミネート(1999年)、モントリオール国際映画祭グランプリ・観客賞・国際カトリック協会賞・国際批評家連盟賞(1997年)、シンガポール国際映画祭最優秀アジア映画賞(1998年)、ニューボート映画祭最優秀外国映画賞(1998年)等受賞。

### あの娘と 自転車に 乗って

1998年/キルギス・フランス合作映画/81分  
監督 アクタン・アブディカリコフ  
出演 ミルラン・アブディカリコフ  
アルビナ・イマスメワ

少年の淡い思春期を鮮やかな映像美を通して……。

まだ記憶に新しい1999年10月、日本人拉致事件のあったあの中央アジアのキルギス初の長編劇映画。

思春期にさしかかった少年が、身にふりかかる試練を乗り越え、大人へと成長していく過程を詩情豊かに綴っていく。両親と祖母に囲まれ温かい家庭で育った主人公の少年は、どこにでもいる男の子。悪さすれば、恋もする年頃。ところが、ある日、両親が本当の親でないことを知ってから、彼の苦悩がはじまる。

映像は、単なるモノクロではなく、時にはセピア色、漆黒、緑色、更に主人公の感情の高まった部分だけが鮮やかなカラーで、まるで動く絵画のように美しく構成されている。

ロカルノ国際映画祭銀豹賞、ユーラシア国際映画祭グランプリ、ヴィエンナーレ国際映画祭観客賞、東京国際映画祭アジア映画賞特別賞等いずれも1998年受賞。

### 青空がぼくの家

1989年/インドネシア映画/105分  
監督 スラメット・ラルハジョ・ジャロット  
出演 TB.ボーイ・サレフディン  
エロス・ジャロット

二人の友情は青空のように永遠だ。

異なる環境で育った二人の少年の友情に、祖国インドネシアの未来を託した詩情あふれる作品。貧富の差の大きさは、東南アジア諸国の大きな社会問題のひとつ。この問題を裕福階級と貧困階級に属する少年達を通して、真正面から捉えようとしている。

首都ジャカルタのスラム街のバラックが撤去され、両親とも別れ別れになった少年と、何不自由なく高級住宅に住むが、家も学校もいやになった少年が、ふとしたことから知り合い、家族に内緒で一人の少年の祖母を尋ねる旅に出る。二人の前には数々のハプニングが待っていた……。

子どもたちの本当の幸せとは……。二人の少年の友情と冒険の旅が今、はじまる。

ベルリン国際映画祭児童映画祭ユニセフ賞、メルボルン国際映画祭最優秀児童映画賞等いずれも1991年受賞。

### 八月のクリスマス

1998年/韓国映画/97分  
監督 ホ・ジノ  
出演 ハン・ソッキュ  
シム・ウナ

そこには、現実の愛があった。

街角の一角で写真館を営む青年。その写真館を訪れて知り合った駐車違反取締員の若い女性。この二人を機軸に死を迎えつつある青年の限られた生を淡々とした飾り気のない彼の日常生活を通して描いていく。

スクーターに二人乗りをするシーン。遊園地でアイスクリームを食べる二人。雨の中一つの傘に寄り添い歩く……。そんな他愛のない二人のさりげない日常風景をスケッチのように積み重ねていく。

小さな情緒の変化を洗練された詩情あふれる映像で丁寧に描いていく。余分な説明がない分却って人々の心の奥に深く伝わり、いつまでも余韻に浸れる心温まる作品。

最後まで彼らしさを失わず生きざった青年の姿には胸に込み上がる熱い思いが……そして夏から冬へ季節の移り変わりど重なり合うようにラストシーンが観客一人一人の心に残る。

カンヌ国際映画祭正式出品作品(1998年)、モントリオール世界映画祭正式出品作品(1998年)、トロント国際映画祭正式出品作品(1998年)他。

### スパイシー・ラブスープ

1998年/中国映画/109分  
監督 チャン・ヤン  
出演 リュイ・リーピン  
プー・ツンシン

愛は人生の特効薬。

現代の北京を舞台に、愛と結婚に関する5つのラブ・ストーリーによって構成されるオムニバス。恋することの喜びと、愛することの悲しみがギュッとつまって、昨年の東京国際映画祭でもコンペ部門に正式出品し、超満員の観客の支持を得た話題作である。少年期から初老まで、異なった世代5組の男女の、一口すればユーモラスに、もう一口すればまったく楽しく、やがてピリッと辛さがハートを刺激する、まるでスパイシー・ラブスープ(中国料理名=マラータン)のような、恋のアラカルトが5つのテーブルに並ぶ。

監督はこれがデビュー作となる29歳の新鋭。プロデューサー、撮影、録音、美術担当等スタッフ全員が30代前半までの中国映画界の若き俊英達であり、これまでの伝統的な中国映画と全く異なる感覚を作り出した。新時代の中国の、ストリート感覚あふれるラブ・ストーリーである。

東京国際映画祭コンペティション正式参加(1998年)、中国映画金鸡獎最優秀新人監督獎(1998年)、中国映画華表獎最優秀新人監督(1998年)、ロンドンイーストウエスト映画祭オープニング作品(1998年)。